

令和元年度  
横須賀美術館 運営評価報告書

令和2年（2020年）11月  
横須賀市教育委員会  
美術館運営課

## 目次

1	令和元年度 横須賀美術館の運営評価について .....	1
2	令和元年度の運営評価システム .....	3
3	令和元年度の運営評価結果 .....	6
	① 広く認知され、多くの人にとって横須賀市を訪れる契機となる。 ..	7
	② 市民に親しまれ、市民の交流、活動の拠点となる。 .....	14
	③ 調査研究の成果を活かし、利用者の知的欲求を満たす。 .....	19
	④ 学校と連携し、子どもたちへの美術館教育を推進する。 .....	25
	⑤ 所蔵作品を充実させ、適切に管理する。 .....	29
	⑥ 利用者にとって心地よい空間、サービスを提供する。 .....	32
	⑦ すべての人にとって利用しやすい環境を整える。 .....	36
	⑧ 事業の質を担保しながら、経営的な視点をもって、効率的に 運営・管理する。 .....	39
4	横須賀美術館運営評価委員会 委員名簿 .....	41
5	横須賀美術館運営評価委員会条例 .....	42

## はじめに

横須賀美術館の運営評価委員会は、開館前の平成 19 年 3 月に発足しました。それから 3 年間ほど評価システムの構築に関して議論を重ね、点検評価の初年度版になります平成 21 年度の活動の評価を行いました。その後も毎年度評価活動を行いつつ自己点検・自己評価における課題や改善点の検討を繰り返し、横須賀美術館独自の評価システムとして運用し、このたび令和元年度の評価を行いました。

令和元年度の評価は、従来のシステムと同様、3つの使命に基づく7つの目標と、経営的視点による目標を加えた計8つの目標について評価しました。評価結果を昨年度と比較してみると、改善を図るべき項目、達成目標に至らず評価を下げた項目、with コロナ状況下の取り組みへの期待など、改善の検討だけでなく、日頃の活動に対し多くの評価をいただきました。

運営評価を行うことで、年を追うごとに改善は進んでおり、評価システムの PDCA サイクルが正しく機能し、それが成果につながっているものと感じています。

評価システムは、日常的に行われている美術館活動を点検評価し、課題の改善や解決につなげるツールとして活用するものです。このツールを最大限活用し、良い評価を得た活動は現状の継続維持と更なる改善に努め、課題については解決へ取り組んでいくことで、多様な学びを生み出す美術館として活動を続けてまいります。

令和 2 年 11 月

横須賀美術館  
館長 佐々木 暢行

## 1 令和元年度 横須賀美術館の運営評価について

### (1) 運営評価の目的

横須賀美術館の運営評価は、現在行っている活動を振り返り、適正に行われているかを自己点検することで課題や反省を自覚し、改善点の検討につなげるものです。

美術館は1年間の活動をまとめ、自らの評価（一次評価）を行います。一次評価を運営評価委員会に報告し、運営評価委員会は活動内容を市民目線でチェックし、二次評価を行います。併せて、美術館の業務改善、よりよい活動につなげていくことを目的として、改善点や活動の提言を行います。

5頁に掲載した図のとおり評価全体の流れはPDCAサイクルによる改善を基本としています。個々の業務を計画(P:Plan)し、実行(D:Do)していき、その内容を評価(C:Check)し、これを改善(A:Action)につなげていきます。

毎年この活動を繰り返していくことで、よりよい横須賀美術館を目指していくものです。

### (2) 評価項目

横須賀美術館は、その設置条例第1条に「美術を通じたさまざまな交流の機会を促進し、市民の美術に対する理解と親しみを深め、もって文化の向上を図る」と、設置の目的を明記してあります。そしてこの目的に沿った「使命」を掲げ、「使命」に基づいた「目標」を示し、この目標を評価項目として体系づけました。それぞれの目標には、「達成目標」と「実施目標」を掲げ、これが具体的な評価をしていく項目となります。

なお、「達成目標」は数的指標であり、具体的な数値目標が示されるため、達成の成否は客観的に明らかです。評価者は、その他の資料もあわせみたくうえで、達成の度合いを判断し、総合的な評価を行います。

いっぽう、「実施目標」は質的指標であり、評価者は、運営者の行動報告に基づいて、主観的評価を行います。

評価項目は、「平成元年度評価システム」として3～4頁をご覧ください。

### (3) 評価基準

達成目標と実施目標共通の基準を設けています。

目標に到達したかを「S」から「D」の5段階とし、以下の基準としました。

S：優れた成果を挙げている

A：目標を達成している

B：目標をほぼ達成している

C：目標にはほど遠い。より一層の努力を要する

D：努力が結果に結びついていない。方法そのものについて再検討を要する

二次評価を評価委員が行う際には、上記のほか、F：判定不能を設けています。

\*現在の評価項目は、平成22年度に見直し、現在に至っています。

## 【目標の性格】（平成 22 年度から）

「目標」ごとに、「達成目標」と「実施目標」を設けた。

「達成目標」：数的指標

- ・「目標」の達成度合いを端的にしめす数値目標。
- ・主に外的要因（来館者の動向など）によって結果が左右される。
- ・達成したかどうかは客観的に判断される。  
（達成した場合の S/A の別、達成しなかった場合の B～D の別は、各委員の裁量の範囲。）

「実施目標」：質的指標

- ・「目標」を達成するための行動計画。
- ・運営者側の計画的な行動であり、充分であるかどうかは各委員の主観的な判断による。
- ・端的な指標に過ぎない「達成目標」のみでは把握できない部分を補う役割がある。

## 【評価基準】

「達成目標」と「実施目標」に共通の評価基準を適用する。

評価基準 (平成 22 年度から)	
すぐれた成果を挙げている。	S
目標を達成している。	A
目標をほぼ達成している。	B
目標にはほど遠い。 より一層の努力を要する。	C
努力が結果に結びついていない。 方法そのものについて再検討を要する。	D
判定不能	F

S～D の 5 段階評価に、「F」（判定不能）を加えた。「A」と「B」の間に「目標」がある。

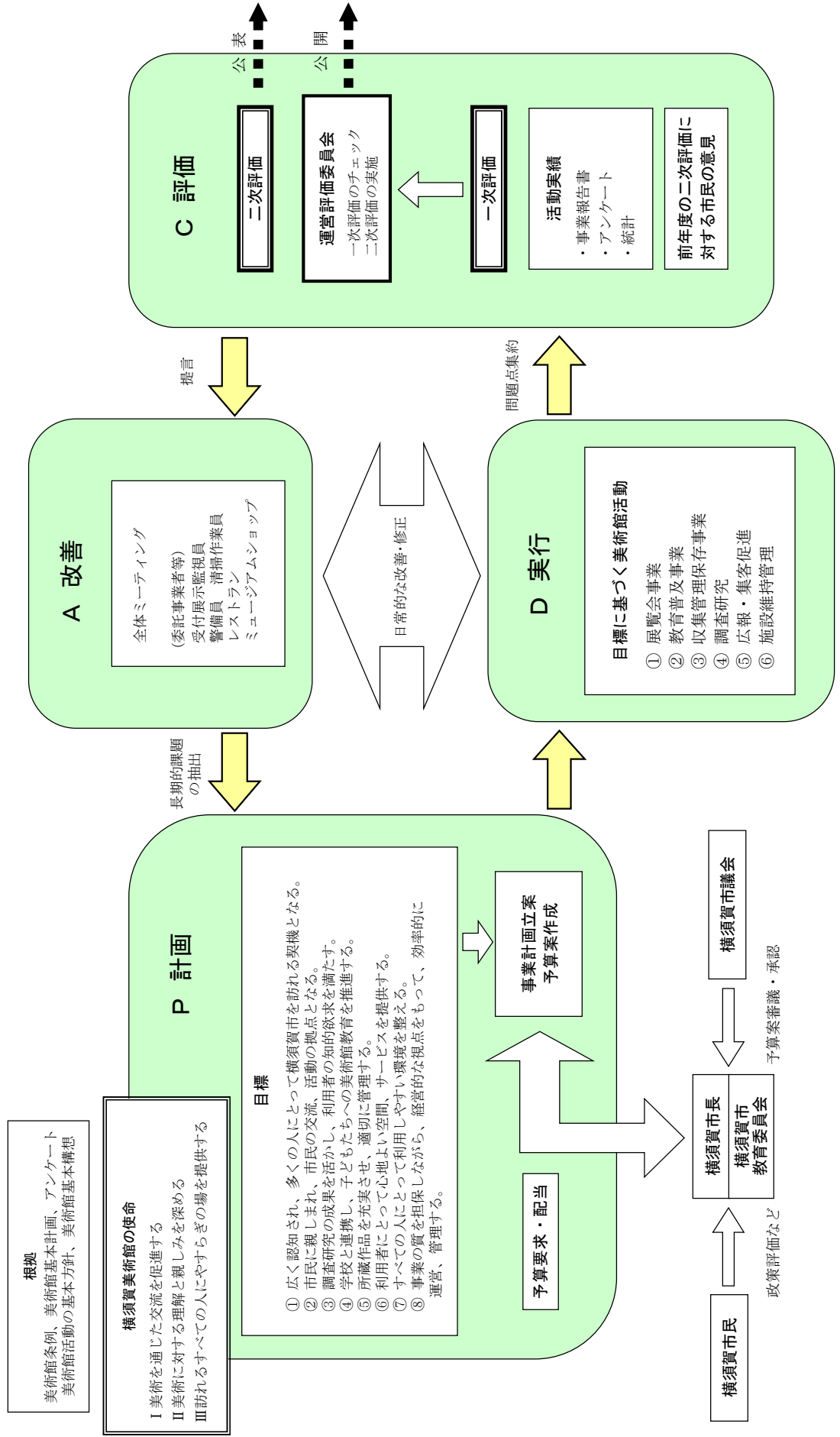
- ・目標を達成していれば「A」以上となり、よい評価であることがわかりやすい。
- ・目標より下に段階を設けることにより、目標を達成していない場合、その度合いを表現しやすくなった。
- ・結果が著しく劣っている、あるいは努力の方向が間違っているために、方法そのものの再検討が必要な場合のために、「D」評価を設けた。
- ・専門的な知識が必要であるなどの理由から、評価ができないという場合のために「F」（判定不能）を設けた。

## 2 令和元年度の運営評価システム

使命	目標	指標	データなど
I 美術を通じた交流を促進する			【集客・交流推進】
① 広く認知され、多くの人にとって横須賀市を訪れる契機となる。			〔広報〕
達成目標	年間観覧者数100,000人以上		<ul style="list-style-type: none"> <li>年間観覧者数(年度別推移)</li> <li>年間来館者数(年度別推移)</li> <li>駐車場利用状況(年度別推移)</li> <li>来館回数(年度別推移) *リポート率</li> <li>居住地域(年度別推移) *市民率</li> <li>交通手段(年度別推移)</li> </ul>
実施目標	<ul style="list-style-type: none"> <li>様々な広報媒体の特性を生かして、効果的な広報活動を実施し、交流を促進する。</li> <li>各種イベントを開催し、展覧会以外の要因での利用を増やす。</li> <li>外部連携を推進し、様々な機会と場所を捉えて、美術館の情報を発信する。</li> <li>旅行会社などへの働きかけを通じて、団体集客を促進する。</li> <li>商業撮影の受入と誘致を推進し、美術館のイメージアップを図る。</li> </ul>		<ul style="list-style-type: none"> <li>各種メディアへの掲載実績</li> <li>訴求活動の概要(ポスター等配布、リリース発送の状況)</li> </ul>
② 市民に親しまれ、市民の交流、活動の拠点となる。			〔市民協働〕
達成目標	市民ボランティア協働事業への参加者数延べ2,400人(事業ごとに加算。登録者・一般参加者を総合して)		<ul style="list-style-type: none"> <li>各事業ごとの開催回数、参加者数の一覧</li> <li>→サボボラ研修</li> <li>所蔵品展ギャラリートーク(参加者数、参加ボランティア数)</li> <li>小学校鑑賞会補助(参加ボランティア数のみ)</li> <li>ワークショップ補助(参加ボランティア数のみ)</li> <li>プロジェクトボランティア会議</li> <li>プロジェクトボランティアイベント(参加者数、参加ボランティア数)</li> </ul>
実施目標	<ul style="list-style-type: none"> <li>市民が美術館に親しみを感じ、訪れる機会をつくる。</li> <li>市民ボランティアが、やりがいを持っていきいきと活動できる場を提供する。</li> </ul>		<ul style="list-style-type: none"> <li>ボランティア関連事業の概要</li> <li>(ボランティアの感想・反応)</li> </ul>
II 美術に対する理解と親しみを深める			【社会教育】
③ 調査研究の成果を活かし、利用者の知的欲求を満たす。			〔展覧会・教育普及〕
達成目標	企画展の満足度80%以上		<ul style="list-style-type: none"> <li>各企画展の満足度</li> <li>所蔵品展の満足度(年度別推移)</li> <li>谷内六郎展の満足度(年度別推移)</li> </ul>
実施目標	<ul style="list-style-type: none"> <li>幅広い興味に対応するようバランスをとりながら、年間6回(児童生徒造形作品展を含む)の企画展を開催する。</li> <li>所蔵品展・谷内六郎展をそれぞれ年間4回、テーマをもたせた特集を組みながら開催する。</li> <li>知的好奇心を満たし、美術への理解を深める教育普及事業を企画・実施する。</li> <li>美術への興味や関心が深まる美術関連の資料(図書、カタログ等)を、図書室で収集・整理・保管・公開する。</li> <li>資料が探しやすく、快適に利用できる図書室環境を維持する。</li> <li>主として所蔵作品・資料に関する調査研究を行い、その成果を美術館活動に還元する。</li> </ul>		<ul style="list-style-type: none"> <li>各企画展(児童生徒造形作品展を除く)の概要(ねらい、担当者の感想・反省点)</li> <li>所蔵品展の概要(同)</li> <li>谷内六郎展の概要(同)</li> <li>講演会・アーティストトーク等の実施状況(同)</li> <li>大人向けワークショップ等の実施状況(同)</li> <li>図書室の概要(図書新規購入額・点数、寄贈図書の点数)</li> <li>図書室の利用状況(利用者の月別推移、担当者の感想・反省点)</li> <li>学芸員による論文、発表等</li> </ul>

④学校と連携し、子どもたちへの美術館教育を推進する。 [若年層への教育普及]		
達成目標	・中学生以下の年間観覧者数22,000人	・観覧者数の券種別内訳(月別推移、年度別推移) ・子どもを対象とした教育普及事業の参加者数(延べ人数の年度別推移)
実施目標	・学校における造形教育の発表の場として、児童生徒造形作品展を実施する。 ・学校及び関係機関と緊密に連携し、子どもたちにとって親しみやすい鑑賞の場をつくる。 ・学校との連携を強化し、小学生美術鑑賞会を充実させる。 ・美術館を活用した鑑賞教育がいつそう充実するよう、アートカードの活用促進をはじめ教員の授業作りに有益な情報提供を積極的に行う。 ・子どもたちとのコミュニケーションを通じて、美術の意味や価値、美術館の役割などに気づき、考え、楽しみながら学ぶ機会を提供する。 ・鑑賞と表現の両方を結びつけたプログラムを実施する。	・児童生徒造形作品展の概要(担当者の感想・反省点)(学校側の反応) ・小学校美術館鑑賞会の概要(実施内容、学校数、児童数、対応職員・ボランティア数、担当者の感想・反省点)(学校側の反応) ・中学生のための美術鑑賞教室の概要(実施内容、担当者の感想・反省点)(生徒の感想) ・子ども向けワークショップ等の実施状況 ・研修等の受入れ状況
⑤所蔵作品を充実させ、適切に管理する。 [収集管理]		
達成目標	・環境調査の実施(年2回) ・美術品評価委員会の開催(年1回)	
実施目標	・収集方針に基づき、主体性を持って積極的な収集活動を行う。 ・適正な保管環境を維持し、そのチェックのため必要な調査を実施する。 ・計画的に所蔵作品の修復、額装を行う。 ・所蔵作品が広く価値を認められ、他の美術館等で開催する企画展などに活用されている。	・作品収集の状況 ・保管環境の状況 ・所蔵作品の修復状況 ・所蔵作品の貸出状況(件数、点数)
Ⅲ訪れるすべての人にやすらぎの場を提供する [運営・管理]		
⑥利用者にとって心地よい空間、サービスを提供する。 [メンテナンス・来館者サービス]		
達成目標	・館内アメニティ満足度90%以上 ・スタッフ対応の満足度80%以上	・アメニティ関連各項目の満足度(年度別推移) →全般・館内印象・館内環境・休憩所・トイレ・清掃 ・スタッフ対応の満足度(年度別推移)
実施目標	・建築のイメージを損なわないよう、十分なメンテナンス、館内清掃を行う。 ・受託事業者と協力して、ホスピタリティのある来館者サービスを実践する。 ・運営事業者と協力して、付帯施設(レストランおよびミュージアムショップ)を来館者ニーズに応じて運営する。	・メンテナンスの概要 ・運営事業者連絡会議の概要(議題等) ・ケータリング実績
⑦すべての人にとって利用しやすい環境を整える。 [バリアフリー]		
達成目標	・福祉関連事業への参加者数延べ360人以上	・福祉関連事業の開催回数、参加人数 →福祉関連講演会 福祉関連ワークショップ 福祉関連パフォーマンス 障害児を対象としたワークショップ
実施目標	・年齢や障害の有無などにかかわらず、美術に親しんでもらう(環境づくり)のための各種事業を行う。 ・必要に応じて、対話鑑賞等の人的サポートを実践する。 ・託児サービスを積極的に周知していく。	・福祉関連講演会の概要 ・福祉関連ワークショップの概要 ・福祉関連パフォーマンスの概要 ・障害児を対象としたワークショップの概要 ・託児サービスの概要 ・養護学校等の受け入れ状況
⑧事業の質を担保しながら、経営的な視点をもって、効率的に運営・管理する。 [経営的視点]		
達成目標	・電気使用量、水道使用量、事務用紙使用枚数を直近3年間の平均値を目安とする。	・エネルギー消費量一覧
実施目標	・職員全てが費用対効果を常に意識し、事業に取り組む。	・歳入及び歳出の内訳

横須賀美術館運営評価システムの全体像





### 3 令和元年度の運営評価結果

## I 美術を通じた交流を促進する

### ① 広く認知され、多くの人にとって横須賀市を訪れる契機となる。

〔一次評価〕

達成目標	実施目標
S	A

【達成目標】年間観覧者数 100,000 人以上

〔目標設定の理由〕

- ・「横須賀市立美術館基本計画」（平成12年6月策定）では、他の公立美術館の実績を参考に、施設の規模、本市の人口などから年間観覧者数を10万人と推定し、開館後の実績としても初年度を除き10万人前後で推移しています。
- ・そのため当館では、まず観覧者目標を10万人以上とし、展覧会内容のバランスを考えながら展覧会を決定しています。
- ・一方、観覧者の見込み数は、展覧会ごとの開催時期や過去に開催したターゲットの近い展覧会の実績などを勘案し算定しています。

〔一次評価の理由〕

- ・年間観覧者数100,000人という目標設定に対し実績は、151,431人となり、達成率151.4%と目標を上回ったことから「S」評価としました。

	平成 28 年度	平成 29 年度	平成 30 年度	令和元年度
観覧者数	108,413 人	118,370 人	111,431 人	151,431 人

	展覧会名	会期	見込(人)	実績(人)	達成率(%)
企 画 展	センス・オブ・スケール展	4/13-6/23	20,000	36,292	181.5
	せなけいこ展	7/6-9/1	28,000	63,138	225.5
	サラ・ベルナールの世界展	9/14-11/4	20,000	16,714	83.6
	版画ワンダーワールド展	11/16-12/22	8,000	7,707	96.3
	第72回児童生徒造形作品展	1/11-1/27	13,000	14,941	114.9
	長沢明展	2/8-3/3	9,000	5,452	60.6
	所蔵品展のみの期間	上記以外	7,000	7,187	102.7
	計		105,000	151,431	144.2

※新型コロナウイルス感染症対策のため、3/4から臨時休館。

※長沢明展の当初の会期は4/12まで。

#### 【実施目標】

- ・ 様々な広報媒体の特性を生かして、効果的な広報活動を実施し、交流を促進する。
- ・ 各種イベントを開催し、展覧会以外の要因での利用を増やす。
- ・ 外部連携を推進し、様々な機会と場所を捉えて、美術館の情報を発信する。
- ・ 旅行会社などへの働きかけを通じて、団体集客を促進する。
- ・ 商業撮影の受入と誘致を推進し、美術館のイメージアップを図る。

#### [目標設定の理由]

- ・ 横須賀美術館は、本市の貴重な都市資源であり、これを有効活用することは、本市の観光立市の推進という観点からも重要になります。
- ・ 市内外に積極的に情報を発信して広い層に魅力をアピールすることで知名度や認知度を向上させていくことが必要と考え、実施目標として設定します。
- ・ 広報、パブリシティ活動にあたっては、当館の利用者層や展覧会ごとのターゲット層に応じた効果的な広報を実施します。
- ・ そのために、様々な広報媒体をその特性を踏まえて効果的に活用し、特に若い世代に対しては積極的にツイッターなどのSNSを活用していきます。

#### [一次評価の理由]

- ・ 商業撮影の件数等は減っているが、無料での情報掲載数や団体観覧者数が目標を達成したこと、またツイッターのフォロワー数が前年に比べさらに増加し10,794人となったことから、「A」評価としました。

《広報・集客促進事業》

展覧会、イベント、ロケーションなど横須賀美術館の魅力をフル活用し、横須賀の交流拠点として集客に取り組んでいきます。そのために、企画展情報だけでなく、美術館の総合的な魅力や外部との連携による地域情報を積極的に発信していきます。

(1) 訴求活動による集客促進

- ・パブリシティを期待した新聞、雑誌等への展覧会リリース
- ・新聞、雑誌等の無料での情報掲載数は279件となり、目標の220件の1.27倍を上回る数字を達成することができました。

(単位：件)

媒体	平成28年度	平成29年度	平成30年度	令和元年度
新聞	52	131	183	136
雑誌	64	65	45	29
Web	11	4	29	54
フリーペーパー	42	22	39	34
書籍	5	2	1	0
会報誌	4	0	2	0
TV	13	13	17	22
ラジオ	3	10	4	4
その他	1	4	0	0
合計	195	251	320	279

- ・広報よこすか等他部局の広報媒体を活用した情報発信  
⇒毎月の広報よこすかへの展覧会情報、美術館のイベント等の掲載
- ・公共交通機関への広告掲出  
⇒京浜急行線 駅貼り（2週間）5回、窓上（4週間）6回  
※ 児童生徒造形作品展を除く各企画展で実施  
※ 所蔵品展で窓上ポスター掲出1回実施  
⇒東急東横線 窓上（1ヶ月）1回  
※ せな展で実施  
⇒京王線 新宿駅・渋谷駅など駅貼り（会期中随時）5回  
※ 児童生徒造形作品展を除く各企画展で実施
- ・その他広告掲出  
⇒京急線横浜駅サイネージ（スケール展・せな展・高木展）  
横浜ランドマークサイネージ（長沢展）  
みなとみらい駅大型ポスター（せな展）
- ・美術系雑誌やタウン紙等、有料での情報掲載  
⇒新聞、タウン紙、雑誌等での広告  
毎日新聞（スケール展・せな展、サラ・ベルナール展、版画展、長沢展）、東京新聞（サラ・ベルナール展、版画展）、産経新聞（サラ・ベルナール展）版画芸術（版画展）、はまかぜ新聞（長沢展・土屋展）

- ・ホームページ、ツイッター、フェイスブックを活用した情報発信  
⇒ホームページは随時更新しています。  
⇒美術館公式ツイッターの運用状況  
フォロワー数は10,794人で昨年度末9,244人より約1,550人増加しました。

【参考】平成31年3月31日現在 フォロワー：10,794人、ツイート：4,842回

※ ツイッターは平成24年9月29日より運用開始

⇒フェイスブックの運用状況

(運用開始:谷内六郎館 平成27年7月31日～、横須賀美術館9月9日～)

横須賀美術館：2,908「いいね!」、谷内六郎館：376「いいね!」

SNS毎の特性を生かした情報発信に努めていきます。

(2) イベント開催など展覧会以外の要因で利用者を増やす取り組みの推進

- ・コンサート等、各種イベントの開催

開催日	イベント名	参加者
9/28・29	海の広場のオペラガラコンサート	延べ668人
12/22	クリスマスコンサート	延べ202人

※2/24 開催予定のマジックワークショップは感染症の影響で中止

- ・年間パスポート、前売り券の販売

	販売場所	30年度		元年度	
		販売枚数	利用回数	販売枚数	利用回数
パスポート	美術館	348枚	2,225回	299枚	2,187回
	芸術劇場	22枚		17枚	
	計	370枚		316枚	
前売り券	美術館	59枚	176回	254枚	300回
	芸術劇場	125枚		67枚	
	計	184枚		321枚	

(3) 外部連携の推進

①他部局との連携

- ・カレーフェスティバルなどイベント参加による情報発信  
⇒観光課 よこすかカレーフェスティバル (5/18-19)  
⇒企画課 ヨコスカアーツ&ミュージックフェスティバル (9/14-12/1)  
⇒商業振興課 初夏のパパまつり (6/15)、ゆかたDEスカブラ (7/27)

- ・米海軍横須賀基地在住者の誘致

⇒What's New in Yokosuka (外国人向け広報紙) への展覧会情報の掲載  
外国人観覧者数 (H28年度から集計)

	西洋系	東洋系	その他	計
H28年度	812人	598人	15人	1,425人
H29年度	712人	694人	55人	1,461人
H30年度	676人	843人	93人	1,612人
R1年度	588人	963人	102人	1,650人

- ・ふるさと納税へ商品提供

⇒観覧券+レストランアクアマーレの食事券の提供

## ②民間事業者との連携

- ・民間事業者との広報協力、イベント参加による情報発信

⇒タイアップメニュー (アクアマーレ、観音崎京急ホテル)

⇒広報協力 (観音崎京急ホテル、ソレイユの丘、うらり、すかなごっそ ほか)

⇒各種学園祭等のイベント協力によるPR

慶応義塾大学、フェリス女学院大学ほか13校

- ・福利厚生団体等との割引施設契約の実施

⇒JAF、JTBベネフィット、リロクラブ、神奈川県厚生福利振興会  
神奈川県市町村職員共済組合 など

- ・京浜急行電鉄発行のよこすか満喫きっぷへの参加

	平成29年度 (7月開始)	平成30年度	令和元年度
利用者数	1,432人	2,350人	3,720人

## ③近隣地域との連携

- ・町内清掃、防犯パトロールなど地域活動への参加

⇒町内清掃などの地域活動への参加や町内会での美術館PR

- ・観音崎全体の魅力を向上させるためのイベントの開催

⇒ガリバーコンサートの開催協力 (10/27)

観音崎フェスタへのブース出店 (11/3)

- ・地域での消費活動を促進する取り組みの検討

⇒タイアップメニューの実施

各企画展で実施している併設のレストランアクアマーレで実施

## (4) 団体集客の推進

- ・市内民間事業者と連携した企画を含めた旅行会社への団体ツアーの企画提案、誘致

⇒文化スポーツ観光部主催の観光商談会 (R2. 1. 23)

⇒募集型企画旅行による観覧者が前年より増

- ・ウェルカムトークの実施

⇒希望に応じて実施

	平成 28 年度		平成 29 年度		平成 30 年度		令和元年度	
	団体数	観覧者数	団体数	観覧者数	団体数	観覧者数	団体数	観覧者数
募集型	15	525	11	393	18	549	5	154
その他	112	4,187	103	4,039	134	5,300	112	4,435
計	127	4,712	114	4,432	152	5,849	117	4,589

(5) 商業撮影の受入と誘致

- ・イメージアップと認知度の向上を目的に商業撮影を受け入れた。  
⇒台風等による施設の破損や新型コロナウイルス感染症予防対策のため、受入を一時中断し、9件にとどまった。  
(スチール7件、動画2件)

年度	平成 28 年度	平成 29 年度	平成 30 年度	令和元年度
撮影件数	30 件	34 件	37 件	9 件
使用料	1,263,392 円	1,484,741 円	2,134,645 円	323,476 円

〔評価委員会による二次評価及びコメント〕

	一次評価	二次評価	評価委員会コメント
達成目標	S	S	<ul style="list-style-type: none"> <li>・コロナ感染拡大で休館や企画展の変更が余儀なくされながらも、151,431 人の観覧者数をあげたことは評価できる [小林 (照)]</li> <li>・実績 11 ヶ月で、この実績は十分 S に値する [菊池]</li> <li>・市内在住者に限っても、対人口比 1 割の来館者数を得たという実績は高く評価する [柏木]</li> <li>・3 月 4 日から休館したにもかかわらずの目標達成は S に値する [小林]</li> </ul>

	一次評価	二次評価	評価委員会コメント
実施目標	A	A	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ コロナ感染症で休館が余儀なくされたに拘わらず、目標の観覧者数を大幅に上回ったことは、美術館の情報発信に工夫がみられた結果と評価できる [小林 (照)]</li> <li>・ 企画力とプロモーションの相乗効果が十分に発揮されたものと評価する [菊池]</li> <li>・ Sに近いA評価。SNS各種の特性に鑑みた情報発信の重要度が増していくと思われるので、ツイッターのフォロワーの増加等、取り組みの成果がでているものと思われる [柏木]</li> <li>・ いくつかの媒体で目にした。スタッフの努力の結果である [中村]</li> <li>・ 色々な分野で情報発信しているのに驚いた [小林 (恵)]</li> </ul>



## ② 市民に親しまれ、市民の交流、活動の拠点となる

### 〔一次評価〕

達成目標	実施目標
A	A

【達成目標】 市民ボランティア協働事業への参加者数 延べ 2,400 人  
(事業ごとに加算。登録者・一般参加者を総合して)

### 〔目標設定の理由〕

- ・活動者数および協働事業への参加者数は、「活動が活発に行われているか」「魅力的な活動を企画しているか」をはかるための指標のひとつとなるものです。
- ・平成 30 年度の後半に、ギャラリートークボランティアが新規加入したため、令和元年度研修の回数は 30 年度と同等となることが予測されます。また、小学生美術鑑賞会ボランティアは募集するため、こちらの研修回数も 30 年度とほぼ同等となる予定です。
  - \*ギャラリートークボランティア登録者数 19 名 (平成 31 年 3 月末時点)
  - \*小学生美術鑑賞会ボランティア登録者数 21 名 (平成 31 年 3 月末時点)
- ・みんなのアトリエボランティアの登録者数自体は増えていますが、アトリエ参加者の定員数に対し、ボランティアは 2～3 名と決まっているので、活動自体は横ばいとなっています。
  - \*みんなのアトリエボランティア登録者数 14 名 (平成 31 年 3 月末時点)
- ・プロジェクトボランティアの活動については、30 年度と同等となることが予測されます。
  - \*プロジェクトボランティア登録者数 15 名 (平成 31 年 3 月末時点)
- ・年間の活動日数、ボランティアの参加状況、イベント参加者数の動向をふまえ、令和元年度の目標は、延べ 2,400 人とします。

### 〔一次評価の理由〕

- ・令和元年度の延べ参加者数は 2,608 人となり、目標を上回りましたので、A 評価としました。
- ・新型コロナウイルス感染拡大防止のために、3 月以降の活動をすべて休止したため、延べ参加者数の実績値は、実質的には 2 月末までのものとなっています。
- ・ギャラリートークボランティアの参加者数について、元年度は新規ボランティア向

けの研修を行いました。無料観覧日の2月16日（日）は、所蔵品展にて待ち受け型のギャラリートークを行い、来館者サービスの向上とボランティアのモチベーション維持を期待しました。

- ・小学生美術鑑賞会ボランティアの参加者数について、元年度の研修は座学だけでなく、「文字のない手紙」と題した触察のワークショップも行い、たいへん人気でした。ひとつのものでも、さまざまな見方、感じ方があることを身体的に獲得できたことで、児童のいろいろな意見を受容できるようになり、鑑賞活動をより楽しめたそうです。また、昨年度から準備していた対話鑑賞を、試行的に行いました（約10名の児童にボランティアが1名同伴）。加えて、1クラスにボランティアが2名同伴する体制をなるべく徹底したことにより、参加人数は微増しています。
- ・プロジェクトボランティアの活動について、元年度は通常通り年3回（GW、夏、冬）のイベントを開催しました。ボランティアイベントの参加者数については、GWと夏のイベントについては、大勢がいちどに遊べる内容であったため、30年度よりも増えました。
- ・みんなのアトリエボランティアの参加者数については、申出をすべて受け入れた結果、前年度と同等となっています。

市民ボランティア協働事業への延べ参加者数

（単位：人）

	平成 28 年度	平成 29 年度	平成 30 年度	令和元年度
ギャラリートークボランティア	334	338	433	345
小学生美術鑑賞会ボランティア	263	197	269	302
みんなのアトリエボランティア	34	21	39	38
プロジェクトボランティア	283	272	229	182
プロジェクト当日ボランティア	27	49	26	30
小計	941	877	996	897
ギャラリートーク参加者	371	453	656	403
ボランティアイベント参加者	1,350	1,363	855	1,308
小計	1,721	1,816	1,511	1,711
計	2,662	2,693	2,507	2,608

---

## 【実施目標】

- ・市民が美術館に親しみを感じ、訪れる機会をつくる。
  - ・市民ボランティアが、やりがいを持っていきいきと活動できる場を提供する。
- 

### [目標設定の理由]

- ・ボランティアと協働することにより、市民にとって親しみやすい美術館により近づくことができます。美術館への親近感や愛着を持ったボランティアの方々を架け橋として、より広い層の市民に美術館の魅力を知っていただく機会を増やしたいと考えています。
- ・ボランティア活動は労働ではなく、美術館が担うべき社会教育の一環として考えています。ボランティアがそれぞれの経験やアイデアを活かし、仲間どうし協力し、美術館ならではの活動をしていくこと、そして、それがやがて地域の新しいコミュニティとなることを期待しています。
- ・ボランティア活動がより広がるよう努めます。例えば、ギャラリートークボランティアの活動を周知したり、小学生美術鑑賞会ボランティアやみんなのアトリエボランティアのような美術館の事業に関わる活動の充実などを検討していきます。

### [一次評価の理由]

(全体として)

- ・活動の目的や内容が異なるので、基本的にはギャラリートークボランティアと小学生美術鑑賞会ボランティアの活動は分けて考えていますが、昨年度に引き続き、学芸員による所蔵品展や企画展のレクチャーについては、希望すれば横断的に出席できるようにしました。ボランティア同士の交流の場となると同時に、お互いの活動に興味を持つ様子が見られます。

(ギャラリートークボランティアについて)

- ・新規ボランティアが加入したため、各学芸員が持ち回りで、美術史に関するレクチャーを行いました。また、ボランティアが作成したトークプランを、学芸員がチェックすることを繰り返すようにしました。
- ・無料観覧日に待ち受け型のギャラリートークを行い、より多くのお客様の満足度を上げることに貢献しました。
- ・所蔵品展でのギャラリートークでは、担当者間で取り扱う作品を分担し、それぞれ工夫した個性的なトークを毎週展開しています。

(小学生美術鑑賞会ボランティア)

- ・企画展毎に、担当学芸員によるレクチャーを行い、企画展でもボランティアが安心して小学生を受け入れられるようにしました。

- ・座学だけでなく、「文字のない手紙」と題した触察のワークショップも行い、ひとつのものでも、さまざまな見方、感じ方があることを身体的に獲得できたことで、児童のいろいろな意見を受容できるようになり、鑑賞活動をより楽しめたそうです。
- ・ボランティア2名に1クラスの引率を任せており、責任感とやりがいを持って取り組んでもらいました。

(「みんなのアトリエ」ボランティア)

- ・新規登録者はいませんでした。これまでも活躍していたボランティアの経験が豊かになり、参加者と自然な交流ができるようになりました。
- ・ボランティアを希望された方全員にお手伝いいただくようにしたことで、継続的な活動ができました。

(プロジェクトボランティアについて)

- ・元年度は、GW・夏・冬にイベントを企画・開催しました。各回ともボランティアと会議を重ね、盛大なイベントが開催できました。ひとつのイベントのなかで、複数のプログラムを行うことで、ボランティア・参加者ともに楽しめるイベントになっています。
- ・プロジェクトボランティアのイベントは、「だれでも参加できる」「美術館を活かした活動」という点に留意しながら、ボランティア自身が発案し運営するイベントです。それぞれのイベントは地域の行事として定着し、市民を中心に多くの方が参加しています。
- ・ボランティアの経験値が高くなったことで、イベント開催に向けて着々と準備が進められるようになりました。また、当日の進行がスムーズに行われています。
- ・プロジェクトボランティアのイベント開催に向けてさまざまな方法や道具を試すなど、各活動において、ボランティアに対して細かい対応ができています。

#### [次年度への課題]

- ・ギャラリートークボランティアの普段のトークをふりかえり、より良くするための研修を引き続き行います。
- ・小学生美術鑑賞会ボランティアについては、試行的に行った対話鑑賞の評判が良かったため、児童の鑑賞活動をよりサポートできるよう、研修の回数を増やしていきます。
- ・プロジェクトボランティアの意向を尊重しながら、安心・安全なイベントの開催をサポートします。

〔評価委員会による二次評価及びコメント〕

	一次評価	二次評価	評価委員会コメント
達成目標	A	A	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ コロナ感染症の影響でのギャラリートークボランティアの活動が一部変更を余儀なくされた中で、2608人の参加者をあげたことは評価する〔小林（照）〕</li> <li>・ ボランティア活動内容もPR材料になるだろう〔中村〕</li> </ul>

	一次評価	二次評価	評価委員会コメント
実施目標	A	A	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 「市民ボランティアが、やりがいを持っていきいきと活動できる場を提供する」とあるが、その内容は抽象的である。少なくとも、「やりがいを持っていきいき」についての内容を踏まえた記載が望まれる〔小林（照）〕</li> <li>・ with コロナの状況が続く中で、活動の在り方の研究とそれに基づく工夫が必要になる〔柏木〕</li> <li>・ より一層ボランティア活動が広がることを望む〔小林（恵）〕</li> </ul>

## Ⅱ 美術に対する理解と親しみを深める

### ③ 調査研究の成果を活かし、利用者の知的欲求を満たす

〔一次評価〕

達成目標	実施目標
A	A

【達成目標】 企画展の満足度 80%以上\*

〔目標設定の理由〕

- ・ 展覧会を企画・実施することは、美術館にとって基本的な活動のひとつであり、中でも、企画展は、波及効果が高く、最も力を注ぐべき事業といえます。こうした認識から、企画展に対する来館者の満足度を、美術館の社会教育機能の高さを示す目安としました。
- ・ 満足度は来館者へのアンケートによって算出しており、同じ方法の調査を継続的に行っています。「作品」「観覧料」「配置・見やすさ」「解説・順路」「心的充足」「総合」の各項目について調査し、「総合」の満足度を指標としています。
- ・ ここ数年の数値の変化の経緯を総合的に判断し、目標を80%以上としました。

※ なお、年度ごとの「企画展満足度」を算出する際には、それぞれの企画展の観覧者数の比率を反映させています。企画展Aの観覧者数をA（人）、企画展Aの満足度をa（%）とするとき、年度ごとの満足度（%）は  
$$(A a + B b + C c + D d + E e + F f) / (A + B + C + D + E + F)$$
で表します。

〔一次評価の理由〕

目標の「80%以上」を超える 90.0%という数値となりました。

	平成 28 年度	平成 29 年度	平成 30 年度	令和元年度
企画展満足度	88.0%	89.6%	87.4%	90.0%

企画展別にみると、「センス・オブ・スケール展」は、現代作家9人を中心に「スケール」をテーマとした展覧会で、とりわけ「作品」の満足度が91.9%と高く、「配置・見やすさ」も87.5%と高い数値を得ています。

「せなけいこ展」は幅広い世代から支持される、ベテラン絵本作家の初の大規模個展でした。「作品」については93.7%、「配置・見やすさ」は90.0%という数値で、充実した作品群や2世代、3世代揃って鑑賞できること、ミュージアムショップでの購買意欲も

手伝って高い満足度になったと分析しています。

「サラ・ベルナールの世界」は19世紀半ば以降のパリで活躍した女優と、彼女をめぐるミュシャやラリック等によるデザイン・工芸分野の作品で構成した展覧会です。「配置・見やすさ」が93.6%、「作品」が92.7%と高い数値で、最も低い数値を示したのは「解説・順路」の80.5%でした。

「版画ワンダーワールド」は、当館のコレクションに他館からの借用作品をあわせ、版画の技法を紹介し、版画表現の豊かさや多様性をご覧いただきました。「作品」は91.8%、「観覧料」は88.9%と高い数値となり総合的には87.5%という結果となりました。技法を丁寧に紹介する内容が授業にも活用できるため、学校の来館も多くなりました。

「長沢明展 オワリノナイフーケイ」は、横須賀にゆかりのある現代画家による、初の大規模個展でした。展覧会半ばで臨時休館、そのまま閉幕となりアンケートの母数自体は小さいものでしたが、「配置・見やすさ」は96.1%、「作品」については90.0%と高い数値が出ましたが、「観覧料」は69.4%となりました。変化のある展示が高い数値に反映されましたが、10～20代と若い人たちが多く来館したため、通常の観覧料を高いと感じたかもしれない、と分析しています。

毎年恒例となっている「児童生徒造形作品展」の観覧者の多くは出品された子どもたちの関係者であり、内容を批判する要素に乏しいことから、他の企画展と満足度を比較するには注意が必要ですが総合的に90.3%と高い満足度を示しています。

各項目についての満足度を見ていくと、企画展では「作品」「配置・見やすさ」の数値が高いです。一方「解説・順路」については数値のばらつきがみられます。「順路」は建物上の制約もあるので、今後この項目について検討しなおし、より明確に評価が反映されやすくします。

---

## 【実施目標】

- ・幅広い興味に対応するようバランスをとりながら、年間6回（児童生徒造形作品展を含む）の企画展を開催する。
- ・所蔵品展・谷内六郎展をそれぞれ年間4回、テーマをもたせた特集を組みながら開催する。
- ・知的好奇心を満たし、美術への理解を深める教育普及事業を企画・実施する。
- ・美術への興味や関心が深まる美術関連の資料（図書、カタログ等）を、図書室で収集・整理・保管・公開する。
- ・資料が探しやすく、快適に利用できる図書室環境を維持する。
- ・主として所蔵作品・資料に関する調査研究を行い、その成果を美術館活動に還元する。

---

## 〔目標設定の理由〕

社会教育機関としての美術館は、常に知的好奇心を満足させる事業を行い、また、そのための環境を整えていかななくてはなりません。美術として扱うべき領域はとても広く、利用者の幅広い興味に応えるためには、所蔵品展以外にもさまざまなテーマを設けた企

画展を開催する必要があります。作品の借用が許される期間に限度があることなどを考慮し、1カ月半から2カ月程度を目安とした年間6回の企画展を計画・開催しています。また、コレクションの魅力を紹介するために、所蔵品展および谷内六郎展をそれぞれ年間4回開催しています。

さらに、横須賀美術館では、美術への親しみ、理解を深めるために、講演会やワークショップなど、年間を通じてさまざまな教育普及事業を展開しています。ここでは、広く一般向けの教育普及事業について、評価の対象とします。

これらの事業を企画・実施するための基礎が、調査研究です。範囲は、所蔵作品に関することを中心に、広く美術に関すること、教育普及に関することを含みます。

### 〔一次評価の理由〕

元年度の企画展は、親しみやすいテーマ展、人気の絵本作家の個展、コレクションを生かした版画展、横須賀出身の現代作家の個展など多岐にわたっていました。

「センス・オブ・スケール展」は「スケール」をテーマにし現代作家9名と科学者ら3名の作品・資料で構成した展覧会です。テーマが新鮮だったこと、出品作家の方々が意欲的に横須賀にちなんだ作品制作をしたこと、会場内での写真撮影を許可したことなどが要因で大きな反響がありました。

「せなけいこ展」では、『ねないこだれだ』など多くのロングセラー絵本を手掛ける作者の、初めての大規模個展で約300点を出品しました。代表作の絵本原画のほか、絵本作家デビュー前の幻燈や紙芝居の仕事も紹介し、子どもから大人まで幅広い年齢層の方々が楽しめるよう、写真撮影スポットを設けました。

「サラ・ベルナルの世界」は、19世紀半ば以降のパリで活躍した女優であるサラ・ベルナルを中心に据え、当時の貴重な写真、肖像画、記録映像とともに、ミュシャ、ラリックなど彼女の舞台を彩ったデザイン・工芸分野の作品などあわせて約150点を通して、ベル・エポックの時代の文化を多面的にご紹介しました。

「版画ワンダーワールド」は、当館のコレクションを中心に他館からの借用作品をあわせ、木版画、リトグラフ、銅版、シルクスクリーンなど様々な「技法」に着目し、版そのものや、解説パネル、映像を加えてご紹介しました。

「長沢明展 オワリノナイフーケイ」は、横須賀にゆかりのある現代画家による、初の大規模個展でした。代表作の絵画のほか、インスタレーションや新作を加えて構成しました。会期中で臨時休館になりましたが、関心を持った方々が多く来館されました。

所蔵品展では、会期ごとに特集を組み借用作品も加えて、より魅力のある展示となるよう努めました。

第1期では、「怖い絵」と題し、戦争や死をテーマにした作品や、異形の者を描いた作品を展示しました。

第2期では、特集として横須賀ゆかりの造形作家・高木修の新作を含めて北側展示ギャラリーと第8展示室で紹介しました。

第3期では、特集を「山崎省三」と題し、村山槐多の友人でもあり横須賀にゆかりのある画家について所蔵品から紹介しました。

第4期は神秘的なイメージの木彫で注目される横須賀育ちの作家「土屋仁応」を、



借用作品で構成し、展示しました。会期中で臨時休館となってしまいましたが、多くの方をひきつけた展示となりました。

谷内六郎館では、所蔵品展の会期と連動して、年4回の展示替えを行っています。30年度は、1期では「旅の思い出」、2期では「宇宙が語る夢」、3期は「昭和というたからもの」、4期では「コラージュで広がる世界」というテーマをたてました。また第3期では谷内の原画とあわせて、コピーライター・岩崎俊一(1947-2014)によるコピーと共に展示をしました。

教育普及事業（一般向け）の開催状況は、下表のとおりです。令和元年度は、特に講演会やアーティストトークに関し、これまでにない手法を取り入れるなどして充実を図りました。ただし、感染症対策のため会期中で休館となった「長沢明」展については、関連のアーティストトークおよび学芸員によるギャラリートークを中止としました。

講演会・アーティストトーク等

(単位：人)

タイトル	開催日	講師	定員	参加
「センス・オブスケール」展 出品作家によるトーク	4月13日	田中達也(出品作家)	70	85
「センス・オブスケール」展 出品作家によるトーク	4月14日	岩崎貴宏(出品作家)	40	20
「センス・オブスケール」展 出品作家によるトーク	4月14日	平町公(出品作家)	40	17
「センス・オブスケール」展 出品作家によるトーク	5月19日	高橋勝美(出品作家)	40	67
「センス・オブスケール」展 出品作家によるトーク	5月19日	高田安規子・政子 (出品作家)、沢山遼	40	23
「センス・オブスケール」展 出品作家によるトーク	6月15・22・23日 (6回)	高橋勝美(出品作家)	240	190
読絵ん会せなけいこ寄席	7月13日、 8月10日	保科琢音(落語家)	80	450
「サラ・ベルナールの世界展」関連講演会 「フランスで女優をすること」ということ	10月26日	竹中香子(女優)	40	35
「版画ワンダーワールド」関連 アーティストトーク	11月16日	磯見輝夫(出品作家)		25
「版画ワンダーワールド」関連 アーティストトーク	11月17日	もりといずみ (出品作家)		40
「版画ワンダーワールド」関連 アーティストトーク	11月30日	五島三子男 (出品作家)		27
「版画ワンダーワールド」関連 アーティストトーク	11月30日	藤田修(出品作家)		33
学芸員によるギャラリートーク	各企画展 ※	当館学芸員		51 (3回の計)

※4回のギャラリートークを計画していましたが、うち1回を感染症対策のため中止としました。

展覧会関連ワークショップ

(単位:人)

タイトル	実施日	講師	定員	参加
「サラ・ベルナールの世界」展関連 「シャドウボックスでつくるユリの花束」	9月22日	竹歳當子 (アトリエデクペ主宰)	30	27
「谷内六郎(週刊新潮表紙絵)展」関連 「知ろう、つくろう、キャッチコピーの世界 ～案外カンタン、結構ムズカシイ」	12月1日	岩崎亜矢 (コピーライター)	16	10

オトナ・ワークショップ

(単位:人)

タイトル	実施日	講師	定員	参加
「九谷焼絵付けワークショップ」	7月21日	伊藤由紀子(陶芸家)	24	24
「フットラグのクリスマスオーナメント作り」	11月24日	イワタマユミ(羊毛作家)	20	17

映画上映会

(単位:人)

タイトル	実施日	講師	定員	参加
冬のシネマパーティー 『勝手にしやがれ』(日本語字幕版)	2月1日	キノ・イグルー (移動映画館)	30	30
	2月2日		30	29

## 他課との連携

(単位：人)

タイトル	実施日	講師	参加
2019年度 横須賀市市民大学 夏期特別講座「サラ・ベルナール 大女優の舞台裏に迫る」 (横須賀市生涯学習財団との共催。 まなびかん)	8月27日	富田康子(当館学芸員) 滝沢明子(共立女子大 文芸学部准教授)	59
「サラ・ベルナールの世界」展を語る (16ミリ試写室主催。横須賀市立 中央図書館)	10月9日	富田康子(当館学芸員)	17

図書室については、美術史・デザイン・建築・写真など幅広い分野の美術図書、展覧会図録、所蔵作家に関連する資料、子ども向けの美術入門書、定期購読雑誌などを収集・公開し、多くの来館者に利用されています。室内環境の整備・維持に努め、レファレンスサービスやコピーサービスに対応し、図書室の利用を支援しています。

## 〔評価委員会による二次評価及びコメント〕

	一次評価	二次評価	評価委員会コメント
達成目標	A	A	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ Sに近いA評価観覧料の満足度が評価を下押ししている [菊池]</li> <li>・ 90%代となった点に鑑み、Sに近いA評価 [柏木]</li> </ul>

	一次評価	二次評価	評価委員会コメント
実施目標	A	A	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ コレクションを活かした「版画ワンダーワールド」展や地元アーティストを取り上げる「長沢明」展などの取り組みは、コロナ状況下、重要度を増していく [柏木]</li> <li>・ 企画のバランスがとても良い。そのセンスが横須賀の特長になればよい [中村]</li> <li>・ 講演会・アーティストトークが充実したと思う。市民大学との連携は有意義である [小林(恵)]</li> </ul>

#### ④ 学校と連携し、子どもたちへの美術館教育を推進する

〔一次評価〕

達成目標	実施目標
S	A

【達成目標】 中学生以下の年間観覧者数 22,000 人

〔目標設定の理由〕

子どもたちが美術館に親しみを持ち、利用しやすくするため、さまざまな取り組みを行っていますが、その成否は、実際の観覧者数に反映されるはずです。

従来、横須賀美術館では、一定の質を保った美術展を年間通してバランスよく行うこととし、春～秋には、子どもや家族層にも親しみやすい企画展を1つ以上開催しています。平成30年度は、夏季の「三沢厚彦 ANIMALS IN YOKOSUKA」展を家族・子どもにアピールする展覧会と位置づけ、市立幼・小・中への全児童生徒に配布するなど周知に努めて、一定の成果をあげることができました。平成29年度の「tupera tupera」展のような爆発的な集客要素がなかったため、年間観覧者数の飛躍的な増加は見られませんでした。年間を通じた安定的な低年齢層の集客状況から見て、親しみやすい展覧会を行なう美術館であるとの評価は定着したものと捉えています。

令和元年度も、4月中旬から9月上旬まで、現代美術展「センス・オブ・スケール」展と絵本作家せなけいこの回顧展の2つを開催し、これらを家族・子ども向けと位置づけて集客に努めます。

また、学校連携については、教員を対象とした「美術館活用講座」を引き続き開催するほか、教育指導課と連携しながら「小学生美術鑑賞会」をより充実させるための教員への情報提供を行うなど、多方面で取り組みを進めます。

ただし、市全体の14歳以下の人口は減少傾向で、小学生美術鑑賞会の参加者である市立小学校6年の在籍者数も、開館時から15%ほど下降しています。また、過去数年間の数字の推移から見て、中学生以下の年間観覧者数の目標値22,000人は妥当な数値と考えられます。したがって、令和元年度も引き続き同等の目標値とします。

### [一次評価の理由]

令和元年度の中学生以下の年間観覧者数は31,473人で、目標を達成しました。達成率は143.1%でした。

中学生以下の観覧者数 (単位：人)

	平成 28 年度	平成 29 年度	平成 30 年度	令和元年度
幼児	5,668	11,562	5,246	12,636
小学生	12,414	12,335	11,748	14,814
中学生	4,126	3,448	3,811	4,023
計	22,208	27,345	20,805	31,473

幼児の観覧者の伸びがこの項目の数値を大きく引き上げています。月別では、特に7、8月に中学生以下の観覧者の割合が高いことから、「せなけいこ」展が中学生以下の集客に寄与したことがわかります（7月の幼児3,079人、小学生1,447人、中学生536人。8月の幼児6,246人、小学生3,284人、中学生1,639人）。次いで、「センス・オブ・スケール」展の開催時期に当たる5、6月にも、中学生以下の観覧者を多く得ることができました。

### 【実施目標】

- ・学校における造形教育の発表の場として、児童生徒造形作品展を実施する。
- ・学校及び関係機関と緊密に連携し、子どもたちにとって親しみやすい鑑賞の場をつくる。
- ・学校との連携を強化し、小学生美術鑑賞会を充実させる。
- ・美術館を活用した鑑賞教育がいっそう充実するよう、アートカードの活用促進をはじめ教員の授業作りに有益な情報提供を積極的に行う。
- ・子どもたちとのコミュニケーションを通じて、美術の意味や価値、美術館の役割などに気づき、考え、楽しみながら学ぶ機会を提供する。
- ・鑑賞と表現の両方を結びつけたプログラムを実施する。

### [目標設定の理由]

美術教育は表現と鑑賞との両輪によってなりたつものですが、学校教育においては、時間配分の面でも内容の面でも、鑑賞は最小限で、表現が学習の中心になりがちです。

しかし、近年の小・中学校の学習指導要領では、鑑賞教育を重視する傾向が強まっています。平成 29 年に告示され、現在、移行期間中である新学習指導要領（小学校では 2020 年完全実施、中学校では 2021 年完全実施）では、小・中いずれにおいても、美術館・博物館の活用や連携が示されているほか、鑑賞を通して言語活動を充実させるという、これまでの方向を引き継ぎつつ、さらに、校外での児童の作品展示（小中学校）や、学校における鑑賞のための環境づくり（中学校）について、言及があります。こうした状況を踏まえ、美術館は学校のニーズを積極的に汲み上げていく必要があります。

これとともに、美術館としては、学校とは違った美術館ならではのプログラムを通して、子どもたちが美術に親しむ機会の拡充に努めることも重視しています。家族で参加する鑑賞教室やワークショップ、アーティストによる子ども向けワークショップなど、美術館ならではのプログラムを企画、提供し、子どもたちへの美術館教育を推進します。

#### 【一次評価の理由】

令和元年度の子ども向け事業および学校連携事業については、以下の各項目のとおり、順調に実施することができました。年度の前半に行う事業が大半であったため、感染症の影響もほとんどありませんでした。

また、ワークショップについては、今年度、より参加しやすい形態を工夫することとし、申し込み不要の事業を実施したり、応募者数に応じて規模を拡大したりしました。結果として、ワークショップの参加者は前年の倍以上となりました。どのようなワークショップに高いニーズがあるのか、多人数が参加する場合の対応はどのようにすればよいのかなどについても、新たな知見が得られました。

#### 令和元年度に開催した子ども向け事業とその参加者

子ども向けワークショップ	6回開催 ※	参加者数293人 (保護者を含む)
子ども向けギャラリートーク	2回開催	参加者数30人 (保護者を含む)
夏の野外シネマパーティー	2日間開催	参加者数1,000人 (保護者含む)
児童生徒造形作品展の開催	17日間開催	観覧者数14,941人
小学生美術鑑賞会	全市立小学校46校	参加者数3,322人 (6年生と教員の合計)
中学生のための美術鑑賞教室	12回開催	参加者数198人 (保護者を含む)
市立中学校の職業体験受け入れ	市立中学校15校	24人
先生のための美術館活用講座	2回開催	参加者数9人
市立保育園10園対象の鑑賞プログラム	全市立保育園10園	のべ参加者数442人 (4歳および5歳児)
市外学校等へのアートカード貸し出し		10件

※7回開催予定でしたが、感染症対策のため1事業を中止としました。

〔評価委員会による二次評価及びコメント〕

	一次評価	二次評価	評価委員会コメント
達成目標	S	S	<ul style="list-style-type: none"> <li>・中学生にとって美術を勉強する場になっている。これからも中学生の感性を養う場として位置付けてもらえるようになれば価値が高まる [小林（照）]</li> <li>・幼児から中学生まで、美術館として幅広く学校教育への貢献をしている [菊池]</li> <li>・幼児・小学生・中学生とも観覧者数が増加しているのが良い [小林（恵）]</li> </ul>

	一次評価	二次評価	評価委員会コメント
実施目標	A	S	<ul style="list-style-type: none"> <li>・対象が中学生以下の生徒・児童に限定されているので、美術館と学校教育の関係を詳細に分析し、美術館の学校教育に果たす役割、教員の授業づくりへの有益な情報提供を整理し、実施目標の要因とすることによって、④の課題の更なる推進につながるのではないかと [小林（照）]</li> <li>・美術館の学校教育活動に対する内容としては、質的にも十分評価できる [菊池]</li> <li>・児童生徒や幼児の来館をうながす展覧会に企画、申し込み不要のWSの企画参加者増への臨機応変な対応などの工夫の結果が数値表れた [柏木]</li> </ul>

## ⑤ 所蔵作品を充実させ、適切に管理する

---

### 〔一次評価〕

達成目標	実施目標
B	B

---

【達成目標】 環境調査の実施（年2回）  
美術品評価委員会の開催（年1回）

---

### 〔目標設定の理由〕

作品収集は、美術館としての基本的な活動のひとつです。ただし、新規収蔵作品の数量の多寡は、状況に左右される部分が大きく、また、多ければ多いほどよい、という性質のものでもないため、数値目標とするにはふさわしくないと考えます。

収集のための情報収集や調査を継続的に行っていれば、受け入れの可否を諮問するために美術品評価委員会を開催することとなります。ここでは、少なくとも年に1回、美術品評価委員会を開催することを、収集活動に関する数値目標とします。

また、収蔵庫と展示室の環境が作品の保管、展示に適しているかどうか調べる環境調査を、年2回実施することを、保管に関する数値目標とします。

### 〔一次評価の理由〕

環境調査について、5月13日～6月17日、7月22日～8月29日の日程で2回実施しました。

また、寄贈の申し込みのあった作品・資料について調査を行い、3月26日に美術品評価委員会を開催する予定でしたが、新型コロナウイルス感染拡大防止の観点から、中止とすることとしました。審議は、委員に実物をご覧いただくことを原則とするため、書面会議にはせず、審議内容は次回に持ち越しとしました。したがって、令和元年度の新収蔵作品・資料はありません。

結果的に、目標を達成できませんでしたが、不可避の事由による中止であったため、一次評価はBとしました。

---

### 【実施目標】

- ・ 収集方針に基づき、主体性を持って積極的な収集活動を行う。
  - ・ 適正な保管環境を維持し、そのチェックのため必要な調査を実施する。
  - ・ 計画的に所蔵作品の修復、額装を行う。
  - ・ 所蔵作品が広く価値を認められ、他の美術館等で開催する企画展などに活用されている。
-



### [目標設定の理由]

すぐれた美術作品をひろく収集し、次世代に伝えてゆくことは、美術館の果たすべき基本的な役割です。そのために、保管のための適切な環境整備と、作品そのものの修復および保護を行っています。他の機関での展示等の所蔵品の活用は、作品への影響を充分に考慮したうえ、可能な範囲で行っています。

### [一次評価の理由]

令和元年度は、新型コロナウイルスの影響で美術品評価委員会の開催が中止となったことから、新規の作品の受け入れはありませんでした。また、今年度より設けた「美術品等取得基金」に対し、「ふるさと納税」等を通じた寄附が寄せられ、1,412,000円が新たに積み立てられました。収蔵にふさわしい美術品を取得するためには、さらなる積み立てが望まれ、また、具体的な作品選定と予算化が必要なことから、実際の取得は令和3年度以降となる見通しです。

環境調査について、収蔵施設では、例年とほぼ同じ良好な結果が得られた一方で、地下の展示ギャラリーや、閉架書庫においては、昆虫類の侵入がみられました。今後も継続的に調査し、動向を把握したうえで、防除の方法について検討します。

修復・額装について、展示する機会の多い油彩作品1点について、剥落の進行を抑制するための修復を施しました。また、額のなかった作品の新規額装や、日本画1点を本庁舎内で展示するための額の改修を行いました。さらに、図書資料として収蔵していた版画集について、展示に活用できるように、マット装を施しました。

他の美術館で開催された企画展7件に対し、延べ20点の所蔵作品を貸し出しました。当年度は、夭逝の天才画家として並び称されることの多い村山槐多、関根正二の没後100年にあたり、それぞれの回顧展に対し、館蔵の村山槐多《のらくら者》を出品しました。

不測の事態のためとはいえ、当年度の新規収蔵が見送られたことは遺憾です。また、購入による収集についても、道半ばといわざるをえません。虫害防除についてや修復を計画的に行うことについても、いまだ改善の余地があることから、一次評価をBとしました。

### [次年度への課題]

- ・ 作品購入のための情報収集、検討を行います。
- ・ 展示ギャラリー、閉架書庫について、虫害防除のための具体的な対策を検討します。
- ・ 所蔵作品の現況調査を進め、展示計画を考慮した適切な修復・額装を行います。

〔評価委員会による二次評価及びコメント〕

	一次評価	二次評価	評価委員会コメント
達成目標	<b>B</b>	<b>B</b>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ コロナ感染拡大による美術品評価委員会の中止ということで、B評価で致し方ない [小林（照）]</li> <li>・ 環境調査についてはA、美術品評価委員会については不可避の事由ですのでFと判断し、全体評価としてはAとする[柏木]</li> </ul>

	一次評価	二次評価	評価委員会コメント
実施目標	<b>B</b>	<b>B</b>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 美術品評価委員会の開催には至らなかったが、収集のための調査や活動は実施していると判断できる [柏木]</li> <li>・ 作品の保全、修復、活用は、適切に実施され、課題が把握されている [柏木]</li> <li>・ 令和3年度以降の美術品購入に向けて、必要な調査を継続し、市の所管部局と課題共有に務めて欲しい [柏木]</li> </ul>

### Ⅲ 訪れるすべての人にやすらぎの場を提供する

#### ⑥ 利用者にとって心地よい空間、サービスを提供する

##### [一次評価]

達成目標	実施目標
A	A

##### 【達成目標】

- ・館内アメニティ満足度 90%以上
- ・スタッフ対応の満足度 80%以上

##### [目標設定の理由]

- ・達成目標の適正基準として、それぞれ90%以上、80%以上を設定しました。  
この目標値は、過去の実績を参考に、目標を高く持ちつつも達成が決して不可能ではないと思われる数値であり、言い換えれば、目標値の達成イコールかなりの高水準を維持できていると思われる数値としました。
- ・満足度は、来館者アンケートの質問8項目（アクセス、館内印象、静かさ、スタッフ、休憩所、トイレ・授乳室、清潔感、総合）の内、外部要因や展覧会等の企画内容による影響を受けにくい2項目（スタッフ、総合）を指標として使用しています。
- ・館内アメニティ満足度については、来館者アンケートの質問事項「全体的にみて、館内では気持ちよく過ごせた。」に対する満足度（総合満足度）、スタッフ対応の満足度については、来館者アンケートの質問事項「スタッフの対応・案内は適切だった。」に対する満足度を指標としています。  
なお、原因を究明し改善に役立てるため、24年度から5段階評価に加え、「特によかったところ、よくなかったところ」を具体的に記述していただく欄を設けています。

##### [一次評価の理由]

館内アメニティ満足度、スタッフ対応の満足度はともに高水準で推移しています。館内アメニティ満足度については、平成30年度に続き目標を達成しており、スタッフ対応の満足度についても高水準で目標を達成しています。

	平成 28 年度	平成 29 年度	平成 30 年度	令和元年度
館内アメニティ満足度	92.3%	92.8%	95.1%	93.5%
スタッフ対応の満足度	86.0%	86.8%	88.5%	88.1%

館内アメニティ満足度に関して、以前あった「美術館入口やトイレの場所がわかりにくい」など案内サインに係るご意見は減少しました（トイレサインは改修予定）。一方で施設の劣化は年々進んでおりますので、安全性と美観を維持し、お客様が気持ち良く過ごすことができるよう、改善に向けて今後も工夫を重ねていきます。

## 【実施目標】

- ・ 建築のイメージを損なわないよう、十分なメンテナンス、館内清掃を行う。
- ・ 受託事業者と協力して、ホスピタリティのある来館者サービスを実践する。
- ・ 運営事業者と協力して、付帯施設（レストランおよびミュージアムショップ）を来館者ニーズに応じて運営する。

## 【目標設定の理由】

- ・ 横須賀美術館が来館者に好ましい印象を持たれている大きな要因の一つは、周囲の豊かな自然と、その風景と調和したユニークな建物です。しかし、海のそばに立地しているため、強い風雨にさらされることも多く、また塩害などによる老朽化が進んでいることも事実です。建築の魅力をいつまでも来館者に伝えていくためには、適切なメンテナンス、清掃を継続していくことが重要です。
- ・ また、スタッフの対応によって、美術館に対する印象は大きく左右されますので、受付・展示監視スタッフ等の受託事業者との緊密な連携を図り、来館者の立場に立ったより良い接客を目指します。
- ・ 美術館を訪れた際の買い物や食事も、来館者の大きな楽しみです。レストランおよびミュージアムショップと連携し、来館者のニーズに即応したサービスの提供がなされるよう、知恵を出し合い、工夫を重ねていきます。

## 【一次評価の理由】

### （メンテナンス）

- ・ 開閉動作に不具合が生じていた正面入口（自動ドア）の修繕や、落雷により使用不能となった高圧ケーブルの交換工事を行い、お客様が安心して利用できる環境の維持に努めました。
- ・ 空調熱源関連設備の故障や経年劣化部分について部品交換や修理を行いました。
- ・ 展示ケース照明のLED化等の調光関連修繕を行い、展示環境の改善に努めました。

## 【令和元年度の主な修繕（100万円以上の案件を抽出）】

区分	案件	金額（円）
建物	本館正面入口（自動ドア）床下点検口等修繕	1,800,000
設備	高圧ケーブル交換工事	2,635,200
	空調熱源設備修繕（三方弁交換）	2,289,600
	空調熱源設備修繕（圧縮機交換）	4,180,000
	空調自動制御装置システム更新修繕	19,800,000
	展示ケース内照明器具交換	7,590,000
	調光装置部品交換修繕	2,997,500
	駐車場管制機改修修繕	2,992,000

(清掃)

- ・日常の清掃について、利用状況に応じて重点を移す効率的な清掃を心掛けています。

(休憩所)

- ・繁忙期（GW・夏季）の休憩所を確保するため、26年度からワークショップ室前に簡易休憩所（屋外用テーブル・椅子）を設営しています。利用率も高く、好評をいただいています。

(受付・展示監視)

- ・受付や展示監視に従事するスタッフは、来館者と直に接するためクレームの対象となりやすい立場にあります。特に展示監視は、展示物に触ろうとする来館者や迷惑行為をしている来館者への注意などを行うため、クレームを受けやすい業務です。年に数件のクレームはありますが、受託事業者の自助努力（研修、スタッフの入替など）や、館内における情報の共有化の促進によって日々改善の努力を続けており、満足度の数値も一定以上の水準に達しています。
- ・情報の共有や、来館者への対応方法の指示などをきめ細かく行う目的で、来館者からのクレーム内容や対応の記録を日報として毎日提出するよう、平成21年度より展示監視スタッフに義務付けています。  
また平成26年10月の受託事業者変更時から受付スタッフにも日報の提出を義務付けており、課題が生じた場合に迅速に対応する事ができるようにしています。
- ・現在の受託事業者においては、社内講師による研修や外部講師による接客マナー研修を実施するとともに、事業者独自の覆面調査員による接客チェックも行なわれており、その結果はスタッフ対応の満足度向上となって現れていると考えられます。

(ミュージアムショップ)

- ・利用者アンケートの満足度が向上するよう、定期的な打合せを実施し事業者と協力しています。

(レストラン)

- ・メニューの見直しなど運営事業者の自助努力により満足度はかなり向上しています。満足される理由としては、「質の高い食事」「おいしい」のほか、「景色がよい」ことも挙げられています。
- ・企画展ごとに、展示のイメージや内容に合わせた「コラボレーションメニュー」を考案して提供しており、好評を博しています。
- ・顧客のストレスを軽減するため、土日祝日の混雑時（12時～15時）については事前予約をとらず、先着順に対応しています。

(災害への備え)

- ・例年通り年2回の防災訓練を実施しました。避難経路の確認および誘導に重点を置いた実践に即した内容で、受付展示監視をはじめ事業者のスタッフも参加して充実した訓練となりました。

(その他)

- ・平成21年度より、毎月1回、レストラン、ショップ、受付展示監視、警備、広報、総務、学芸の参加による運営事業者連絡会議を開催し、館内で起こっている諸問題について情報共有、改善の提案、検討を行なっています。平成26年度からは設備日常監視業務の受託事業者も参加しています。
- ・混雑が予想される連休等にあわせて、ケータリングカーを誘致し、より多くの来館者に軽食等を提供できるようにしています。(平成20年度以降継続)

〔評価委員会による二次評価及びコメント〕

	一次評価	二次評価	評価委員会コメント
達成目標	A	A	・ Sに近いA評価だと思われる [小林 (照)] ・ 前年度とほぼ同等の実績と判断する [柏木]

	一次評価	二次評価	評価委員会コメント
実施目標	A	A	

## ⑦ すべての人にとって利用しやすい環境を整える

### 〔一次評価〕

達成目標	実施目標
C	B

### 【達成目標】 福祉関連事業への参加者数延べ 360 人以上

#### 〔目標設定の理由〕

- 福祉関連の事業は、内容の充実を図るために対象や参加人数を限定する場合があります、そうした場合は参加者数が減ることとなります。しかし、限定したからこそ、対象の特徴に応じたプログラムの計画実施が可能となり、普段美術館を利用しにくい方でも参加することができる事業を行うことができます。
- 上記のような事情により、福祉関連事業は、その年の事業の性格次第で参加者数の増減が大きくなりがちです。そこで、過去の事業内容と参加者数、令和元年度の事業内容を考慮し、360人以上を令和元年度の目標値としました。

#### 〔一次評価の理由〕

令和元年度の福祉関連事業への参加者数は延べ315人となり、目標を達成しませんでした。また、感染症対策のため、事業5回分を中止としました。

#### 福祉関連事業への参加者数 (単位：人)

	平成 28 年度	平成 29 年度	平成 30 年度	令和元年度
福祉関連講演会	27	12	22	48
福祉関連イベント	84	37	41	62
			14	14 <sup>※1</sup>
他館連携(MULPA)		133 <sup>※2</sup>	55 <sup>※2</sup>	— —
みんなのアトリエ (障害児者向けワークショップ)	192	197	255	191 <sup>※3</sup>
未就学児ワークショップ	39	33	39	— <sup>※4</sup>
計	361	435	426	315

- ※1 福祉関連イベント（1事業分）と他館連携事業の予算を合わせ、連続した3回のワークショップを企画しました。感染症対策のため、うち2回は中止しました。
- ※2 他館連携は平成29年度から令和2年（2020年）度までの実施とし、令和3年（2021年）度以降については、一部事業を継続していくか、他事業と合わせて検討する予定です。
- ※3 みんなのアトリエ参加者数は、保護者やきょうだい児を含みます。3月は感染症対策のため中止しました。
- ※4 未就学児ワークショップは感染症対策のため中止しました。

---

### 【実施目標】

- ・年齢や障害の有無などにかかわらず、美術に親しんでもらう（環境づくりの）ための各種事業を行う。
- ・必要に応じて、対話鑑賞等の人的サポートを実践する。
- ・展覧会の観覧やワークショップ等に参加される保護者向けの託児サービスについて、積極的に周知し、利用しやすい内容で実施する。

---

### [目標設定の理由]

- ・各種事業を通じて、美術館が健常者のみの施設ではないこと、障害の有無に関わらず美術を楽しむこと、また各年齢や状況に応じた楽しみ方があることを伝えていきたいと考えています。
- ・設備や什器を新規に導入することは難しいため、対話鑑賞のような人的対応によるプログラムを充実させることによって、福祉の充実につなげたいと考えています。
- ・障害者等のニーズを、職員が実践を通して知ることによって、次年度以降の取り組みや長期計画に活かしていきたいと考えています。
- ・子どもを持つ方が安心して美術館事業に参加できるよう、託児サービスを行っています。平成30年度より、託児の利用者数を目標値に含めないこととしましたが、託児は引き続き実施されます。乳幼児を持つ人が、それによって美術館利用を妨げられることのないよう、令和元年度も引き続き、適切に託児を実施するとともに、そのための周知に努めることとします。

### [一次評価の理由]

- ・福祉関連講演会では、さわる絵本をつくっている講師をフランスから招聘しました。絵本をつくっている障害当事者やボランティアに向けた広報を行い、例年より多くの方が参加しました。質疑応答も活発で、関心を持つ人が多い分野であることが分かりました。
- ・福祉イベントとして、昨年度に引き続き横須賀市点字図書館と連携し視覚障害者のための出張鑑賞会を行いました。音声ガイド原稿や教材制作のノウハウを得ることができました。
- ・障害児者向けワークショップ「みんなのアトリエ」は、内容面で新しいメニューを取り入れ、リピーターの満足度の向上を心がけました。
- ・令和元年度の特別支援学級や学校の受け入れは、8件でした。とくに特別支援学校については、教員の要望や児童の特徴をヒアリングしながら、鑑賞や、作品の理解につながるミニワークショップなどを実施しました。
- ・他館連携（MULPA）は、かながわ国際交流財団のよびかけのもと、近隣美術館とともに、障害者や定住外国人等の美術館利用を促進するための普及事業を検討実施するプロジェクトです。令和元年度は、昨年度開催した意見交換会で聞かれた声を参考に、市内の福祉施設や作業所の職員、利用者を対象としたワークショップを企画しました（市の障害福祉課と共催）。今後も障害福祉課とともに、施設での創作活



動を支援する動きを発展させていきたいと考えています。

- ・ 1歳～未就学児を対象に、展覧会の観覧やワークショップ等に参加される保護者向けの託児サービスを実施しました（10回22名）。

〔評価委員会による二次評価及びコメント〕

	一次評価	二次評価	評価委員会コメント
達成目標	C	B	<ul style="list-style-type: none"><li>・達成目標の360人以上から見ると参加者の延べ人数は少ないが、感染症拡大防止のために企画を中止にせざるを得なかった事情等を考慮してよい[小林（照）]</li><li>・新型コロナ感染拡大による中止は、やむをえない理由として評価から除外してもよい[菊池]</li></ul>

	一次評価	二次評価	評価委員会コメント
実施目標	B	B	<ul style="list-style-type: none"><li>・実施目標に対して、着実に取り組んでいると判断する [柏木]</li></ul>

⑧ 事業の質を担保しながら、経営的な視点をもって、効率的に運営・管理する

〔一次評価〕

達成目標	実施目標
B	A

【達成目標】 電気使用量、水道使用量、事務用紙使用枚数を直近3年間の平均値を目安とする。

〔目標設定の理由〕

- ・電気料、水道使用料は、美術館の総事業費の約2割弱を占めることから、達成目標を定め管理していく必要があります。平成30年度は、契約電力を620 kWから600 kWに変更を行い電気料の削減を図りました。
- ・職員が努力した効果を目に見えて感じることができるよう、電気使用量、水道使用量、事務用紙使用枚数を、直近3年間（H28～H30）の平均値を目安・目標としています。

〔一次評価の理由〕

	H28	H29	H30	R01 (目標)	R01 (実績)	達成率
総電気使用量(kWh)	2,441,219	2,539,289	2,625,210	2,535,239	2,569,838	0.99
水道使用量(m <sup>3</sup> )	4,394	4,608	4,635	4,546	4,908	0.93
事務用紙使用枚数(枚)	253,550	259,550	226,500	246,533	240,000	1.03

電気使用量、水道使用量については直近3年間の平均値を上回り、事務用紙使用枚数について目標数値を下回りました。目標数値を上回った理由としては、以下のものが挙げられます。

- (1) 夏季、冬季の空調使用量増による電気使用量増
- (2) 夏季の空調機稼働増による水道供用量増

【実施目標】 職員全員が費用対効果を常に意識し、事業に取り組む。

〔目標設定の理由〕

- ・サービスを低下させず経費を削減しスリムな運営体制を目指すためには、職員全員が費用対効果を常に意識した行動が必須であると考え、実施目標としました。

〔一次評価の理由〕

- ・各業務の予算執行時には、複数業者からの見積書徴収や競争入札を行うなど、業務の質を担保しつつ最も少ない経費で業務を執行し、経費削減を実現しています。

具体的な内容の主なものは、次のとおりです。

- ・事業者選定においては、定められた基準等により契約額及び契約先は入札によって決定します。特定の業者でなければ実施できない業務を除いて見積り合せを行っています。この結果、事業の質を担保しつつ最も少ない経費で業務を実施しています。
- ・展覧会関連の出張については、スケジュールをまとめ、出張経路を最短に設定し、経費を削減しています。
- ・一部の案内パンフレットについては、印刷業務委託ではなく、手刷りで作成することで、より少ない経費で業務を執行しています。
- ・事務用品についても在庫の整理を実施しながら、必要な物の調達を行っています。

**[次年度への課題]**

- ・電気使用量や水道使用量は天候や観覧者数等に影響される傾向がありますが、他方で職員の業務執行においては無駄な使用を控えるという意識を持ち続けるように、定例会議等で啓発を行います。
- ・業務執行において経費を節減することは当然ですが、同じ費用の中で最大限の効果を発揮できるように、計画段階や業務執行の中で継続して考えていきます。

**[評価委員会による二次評価及びコメント]**

	一次評価	二次評価	評価委員会コメント
達成目標	B	B	<ul style="list-style-type: none"> <li>・電気・水道等の使用量等について、「直近3年間の平均値を目安に」は、一つの達成目標になるが、気候が定まらずに使用料が変動することも考慮した計画が必要になる [小林 (照)]</li> <li>・観覧者数が目標値の1.5倍になれば、使用量が増えるのはやむを得ない [菊池]</li> <li>・達成目標について、数値の面ではBとなりますが、数値が年度毎の事業ラインナップや気象などに左右されることから、直近3年間の平均値程度という目標設定が果たして妥当なのか検討が必要になる。 [柏木]</li> </ul>

	一次評価	二次評価	評価委員会コメント
実施目標	A	A	<ul style="list-style-type: none"> <li>・コスト意識は普遍的に共有されていると思う [菊池]</li> <li>・展覧会関連出張の効率的な計画が必要だが、交渉等の相手の都合に左右される他律的要因もある [柏木]</li> </ul>

#### 4 横須賀美術館運営評価委員会 委員名簿

(50音順)

	氏名	役職等	区分
委員長	小林 照夫	関東学院大学名誉教授	学識経験者
委員 (委員長職務 代理者)	菊池 匡文	横須賀商工会議所専務理事	関係団体の代表
委員	柏木 智雄	横浜美術館副館長	社会教育関係者
委員	三浦 匡	横須賀市立馬堀小学校校長	学校教育関係者
委員	中村 泰久	市民委員	市民
委員	小林 恵	市民委員	市民

## 5 横須賀美術館運営評価委員会条例

(設置)

第1条 博物館法（昭和26年法律第285号）第9条の規定に基づき、横須賀美術館の運営の状況の評価及びその評価の結果に基づく改善策に関し、教育委員会の諮問に応ずるため、本市に地方自治法（昭和22年法律第67号）第138条の4第3項の規定による附属機関として、横須賀美術館運営評価委員会（以下「委員会」という。）を設置する。

(組織)

第2条 委員会は、委員7人以内をもって組織する。

2 委員は、市民、学識経験者、関係団体の代表者、学校教育関係者、社会教育関係者及びその他教育委員会が必要と認める者のうちから教育委員会が委嘱する。

3 委員の任期は、2年とする。ただし、補欠委員の任期は、前任者の残任期間とする。

(委員長)

第3条 委員会に委員長を置き、委員が互選する。

2 委員長は、会務を総理し、会議の議長となる。

3 委員長に事故があるときは、あらかじめ委員長が指名した委員がその職務を代理する。

(会議)

第4条 委員会の会議は、委員長が招集する。

2 委員会は、委員の半数以上の出席がなければ、会議を開くことができない。

(委員以外の者の出席)

第5条 委員会において必要があるときは、関係者の出席を求め、その意見又は説明を聴くことができる。

(その他の事項)

第6条 この条例に定めるもののほか、委員会の運営に関し必要な事項は、委員会の同意を得て委員長が定める。

### 附 則

(施行期日)

1 この条例は、平成25年4月1日から施行する。

(経過措置)

2 第2条第3項の規定にかかわらず、この条例の施行後初めて委嘱された委員の任期は、平成25年9月30日までとする。

令和元年度 横須賀美術館 運営評価報告書

令和2年11月

横須賀市教育委員会美術館運営課

〒239-0813

神奈川県横須賀市鴨居4-1

TEL 046-845-1211